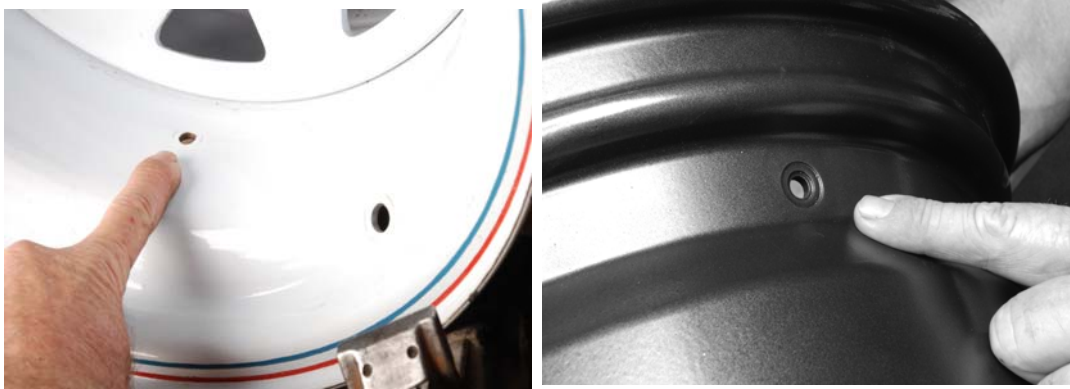


Staun インナービードロック取付けマニュアル

1. チューブのバルブステム穴位置の特定：

ビードロックチューブのバルブ穴は標準位置から 150mm～200mm 時計方向の位置そしてリム中心に近い位置に作り、チューブのバルブステムが機内/リムのブレーキ側にあってもブレーキや関係部品に干渉しないようにします。チューブのバルブステム穴表面はフラットで（チューブのバルブステムとOリング両方に対して）フラットであり、厚み 13mm より小さいものです。（もし Staun の新しいインターナルビードロックが Staun の新しく製造したリムにフィットするのであればチューブのバルブステム穴は前もって穴あけされています。この場合には Step 3 へ進んで下さい。）



2. チューブのバルブステムの穴あけと面取り：

指定位置に 8mm の穴をあけ、インナーOリングを受けるこの穴の落込み中心部の面取りを行います。面取り表面は 2～3mm 広く取って下さい。面取りを行うにはゆっくりした回転スピードで皿穴加工ツールで行うことがベストです。リムの金属片、ビードロックの構成部品、タイヤ内部の全てを綺麗にして下さい。金属片はチューブのトラブルの原因となります。



3. リムの準備 :

リムはクリーンであり、チューブが取り付け中ダメージを受ける荒れたところでは無いことを確認して下さい。錆び、ラベル、粘着性のものはリムから取り除いておいて下さい。

4. タイヤの準備 :

タイヤビードの内側エッジは必要に応じてシャープに又は研磨されているかチェックして下さい。これは36インチ以上のタイヤでは特に大事なことです。直径とは無関係に16mmより大きいビードのついた全てのタイヤでは絶対に守るべきことです。



5. 全コンポーネンツへのパウダ付け :

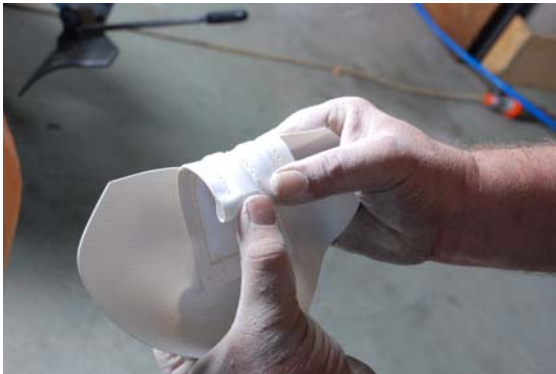
ビードロックのキャップ、チューブ、エアーチャンネル、リムの落込み中心部にパウダを降りかけます。(キャップの内径側の黒い帯がついている) ビードロックの内部と外部両方には特に注意を払って行って下さい。





6. エアチャンネルの形状：

使用するリムのタイヤバルブシステム穴用の適切なサイズのゴムグロメットを選択し他のものは捨ててください。一時的に、そして力づくでなく、タイヤビードが正しい位置にあると仮定してリムの内側にフィットさせるのに必要な形になるように現在のバルブシステム穴までエアチャンネルをホールドして下さい。金属部を使わず、必要に応じてエアチャンネルを曲げたりして下さい。Step 12でまた触れます。



7. 最初のタイヤビードの取付け：

最初のタイヤビードを取付けます。既存のタイヤラブリカントの代わりに Windex のような製品が御奨めです。これだと、もし実際使用时再び濡れてもリムはタイヤ内でスピンのしません。



8. タイヤの持ち上げ：

バランス良くビードロックを取付けるため、外側のタイヤビード（タイヤの取付けられていない部分）とリムの外側（今タイヤの内側になっている）の間に取付けスペースを確保のため木製のブロックで75mm～100mm タイヤを持ち上げて下さい。



9. 最初のビードロックのビードの取付け：

最初のタイヤビードに最初のビードロックのビードを取付けて下さい。エアーチャンネルの重さを補正するためエアーチャンネルのバルブシステムの穴位置から 180 度真向かいにトレッドのオーバーラップ部（縫付け部）を置きます。



10. インナーチューブの取付け：

小さなインナーOリング（のみ）はチューブバルブシステムのベース部にあります。バルブシステムをを上向きにしてチューブをタイヤの上にフラットに置きます。そうしなければ

バルブシステムの穴はリムのセンター寄りになるからです。その場合バルブシステムはリムの内側（ブレーキ側）に対する位置にあるべきです。新たに穿った穴を通してチューブのバルブシステムを挿入後、外側の（大きな）Oリングとリムの外側にあるコーン型ワッシャーを取付け、ナットを半分ほど締付けて下さい。チューブの残りを挿入後、チューブのまくれ、皺、ねじれがないか確認したあと、バルブシステムを引っ張って下さい。





1.1. 外側のビードロックのビードを取付け：

ドロップセンターを使ってリムの上に外側のビードロックのビードを取付けます。ビードロックキャップの内側廻りに手を走らせてビードロックキャップ内にまくれやねじれが無いことが確認出来れば、チューブにストレスがかからなくなります。



12. エアーチャンネルの取付け：

(木製) ブロックを取除きリムの上にタイヤを載せます。チューブのバルブステムにストレスを与えずタイヤのバルブステム穴に自由にアクセス出来る最初のバルブステム穴を越すようにタイヤを傾けます。外側寄り (タイヤマシーンの上) にあるエアーチャンネルのロングエンド (バルブステムのないエンド) で、グロメットがリムの中とうまく座り、エアーチャンネルのショートエンド (バルブステムの端) が下に収まりチューブとリムの間に完全に収まる (フラットになる) ように、最初に予定していたエアーチャンネル (Step 7) の金属部分を最初のバルブのステム穴に挿入します。ワッシャとナットをリムの外側に置き、固く締付けて下さい。締め過ぎないように注意して下さい。タイヤのビードをエアーチャンネルの上に持ち上げ、リムの後ろに真正面に置いて下さい。エアーチャンネルのロングエンドは最終的にはタイヤのエアーチャンバに向かうビードロックのビードとタイヤビードの間になります。



13. 最後のタイヤビードの取付け：

エアチャネルのバルブシステムにあるリムリップを跨いで外側のタイヤビードをこのビードへの取付けを行い、ビードがバルブシステムの上にあるリムを越えて落ちていこうとするまで半時計方向に取付け作業を続けて下さい。エアチャネルがストレスを受けないようにタイヤをサポートしながら、ビードの取付けを続ければタイヤのビードは最終的に両方のバルブシステムの上にあるリムの上に落ち着きます。



14. チューブのバルブシステムのナットの締込み：

チューブを 2psi (0.1406 Kgs/cm²) になるように膨らませ、チューブのバルブシステムのナットを固く締付けます。締め過ぎないように注意して下さい。



15. タイヤのビードをリムと接触させるようにビードロックを使う：

この作業工程を始める前に Windex のような製品をタイヤビードの両方へ差します。両方のタイヤビードが十分にリムと（エアを保持したままで）フルに接触するまでビードロックを膨らませます。典型的なチューブ内圧は 10 psi (0.703 kgs/cm²) 以下です。



16. リム上にタイヤビードをポップ：

タイヤのバルブシステムを使って両方のタイヤビードをリム上にポップさせます。ビードがポップオンしない稀なケースでは作業をやめるためビードロックを使用します。この場合にはタイヤのバルブコア（芯）を引抜きタイヤを完全にへこませます。



17. ビードロックを完全に膨らませます：



ビードロックを 40 psi (2.8 Kgs/cm²) に膨らませます。このことは温度、圧力、拡張の余地を無くすことになります。ビードロックの最大圧力は 50 psi (3.5154 kgs/cm²) です。

18. 希望の圧力にタイヤを再膨張させる：



全環境下では常時タイヤ圧はビードロック圧より小さく少なくとも 5 psi (0.35154 kgs/cm²) であるべきですが、もっと差があっても構いません。

19. エアーチャンネルフローのチェック：

エアーがタイヤの外に流れ出すことを確認のため約 5 秒間タイヤのバルブステムを押し下げます。そうすればエアーが無くなるまで急速にエアーが出ていきます。もしこうならなければエアーチャンネルは再取付けをしなければなりません。

20. タイヤのリークをチェック：

ビードロックと膨張したタイヤ両方及び固く締めた筈のバルブステムのナット両方をマイ

ルドソーブと水を使ってリークがないかチェックします。



ビードロック及びタイヤの取外し：

最初にタイヤをへこませ次にビードロックをへこませます。両方とも取外すためにはビードロックとタイヤ両方をへこませなければなりません。両方のバルブシステムのナットを外し、バルブシステムをリムの外側へ出しタイヤの空洞へ押し出します。（なるべくそれから180° 真向かいにある）バルブシステムのどちらか一方の上にビードブレーカツールを置かないように注意しながら両方のタイヤビードを破って下さい。タイヤビードを外しながらバルブシステムがストレスを受けないように確実な作業を行って下さい。



注意事項：

当該製品はオフロードのみでご使用下さい。全ての地域で合法とは限りません。インナービードロックの間違った取付け又は間違った使い方による責任及び賠償責任は負いません。低空気圧での走行は大変危険ですので適切な運転を行って下さい。取付け作業は危険な場合があります。Staun社とJapan 4x4は取付け作業によるホイールの加工ミス及びインナーチューブの破損について賠償責任を負いません。取付け作業開始前にこのマニュアルをお読みいただくと共にインストールビデオをご覧下さい。安全第一です。作業用手袋、保護メガネ等をお使い下さい。高圧空気には十分注意して下さい。車両をジャッキアップする前にはタイヤ止めを使い、ジャッキアップ後は固定ジャッキスタンドをご使用下さい。将来のためにこのマニュアルを車両に保管して下さい。他の人が修理時又はタイヤ交換時必要かも知れません。インストールビデオはStaun社のホームページ(www.staunproducts.com)でもご覧いただけます。